

データで見る

千代田区の ジェンダー平等の 現在地

令和7年3月

作成 | 千代田区国際平和・男女平等人権課



はじめに

昨今よく耳にする言葉、「ジェンダー」、そして「ジェンダー平等」とは何か、ご存じでしょうか。

「ジェンダー」とは、「男らしさ」「女らしさ」など、社会や文化の中で形成された性別に対する考え方を言い、生物学的な性別を意味する「セックス」に対する言葉として使われています。そして、「ジェンダー平等」とは、「性別にかかわらず、責任や権利や機会を平等に分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めてゆくこと」¹を意味しています。

「男だから」「女なのに」など、性別を理由に生き方・考え方を押し付けられたり、自分自身で可能性を狭めてしまったり、そうしたジェンダーに対する偏見や差別、制度を変えていく取組みが、さまざまなところで行われています。

では、皆さんがお住まいの地域では、ジェンダー平等はどのくらい実現しているのでしょうか。

千代田区では、令和4(2023)年3月に「第6次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」を策定し、「性別による不平等がなく、だれもが自分で生き方を選ぶことができ、その選択が認められて参画できる社会の実現」を基本理念に掲げ、さまざまな施策を展開しています。

この資料は、男女別の各種統計データや、千代田区民と区内事業所を対象として実施した「男女共同参画に関する意識・実態調査」(令和3(2021)年度)などから得られたデータを活用し、男女の性差や、そこから見えるジェンダーの課題などを「見える化」したものです。

掲載されているデータや数字は、ジェンダーに関するさまざまな視点を提供することを目的としています。本資料には、各データについて、解説のコメントを記載していますが、数字の解釈や感じ方は個々の読者に委ねられています。皆さんがそれぞれの視点で考え、議論を深め、行動するきっかけになれば幸いです。

令和7(2025)年3月

千代田区国際平和・男女平等人権課

本資料をご覧いただくにあたって

性の在り方(セクシュアリティ)は、人それぞれで多様なものですが、これまで、性別は「男性」と「女性」の二元的な枠組みで理解され、多くの制度に組み込まれてきました。よって、この冊子においては、これらのジェンダー課題を理解するために、「男性」「女性」という二元的な性別を用いています。

¹ 「みんなで目指す！SDGs×ジェンダー平等」(男女共同参画推進連携会議(事務局：内閣府男女共同参画局))より抜粋 (<https://www.gender.go.jp/public/subtextbooks/pdf/subtextbooks.pdf>)

目次・テーマ

1	千代田区の人口・世帯	5
1-1	年齢別人口構成	5
1-2	昼間人口と夜間人口	5
2	健康	6
2-1	平均寿命・健康寿命	6
2-2	自殺死亡率(10万人あたり)	7
3	家庭と労働	8
3-1	家庭における性別役割分担意識	8
3-2	労働力率	9
3-3	就労状況(または就業率)	9
3-4	夫婦の就業形態(共働き率)	10
3-5	育児休業取得率	10
3-6	介護をしている人の割合	11
3-7	家事分担の実態と意識	11
3-8	男性従業員の育児参加に対する事業所の考え方	13
3-9	男性が育児・介護休業を取得することについての考え方	13
4	多様な人材の活躍・参画	15
4-1	社会全体における男女の地位に対する考え方	15
4-2	管理的職業従事者に占める女性の割合	15
4-3	区職員の管理・監督者に占める女性の割合	16
4-4	区の審議会等の女性委員の割合	16
4-5	区議会の女性議員の割合	16
5	DV・ハラスメント	17
5-1	DV被害の実態(経験)	17
参考	DV相談件数 過去5年	18
5-2	ハラスメント被害の実態(経験)	18
5-3	DVに対する認識	19
5-4	DV・ハラスメントを受けた際に相談したか	20
6	LGBTQ	21
6-1	性自認・性的指向で悩んだことがある人の割合	21
6-2	都パートナーシップ宣誓制度の受理証明書交付組数	22
6-3	LGBTQの従業員を支援するための取組を実施している事業所の割合	22

知っていますか？「ジェンダーギャップ(男女格差)指数」

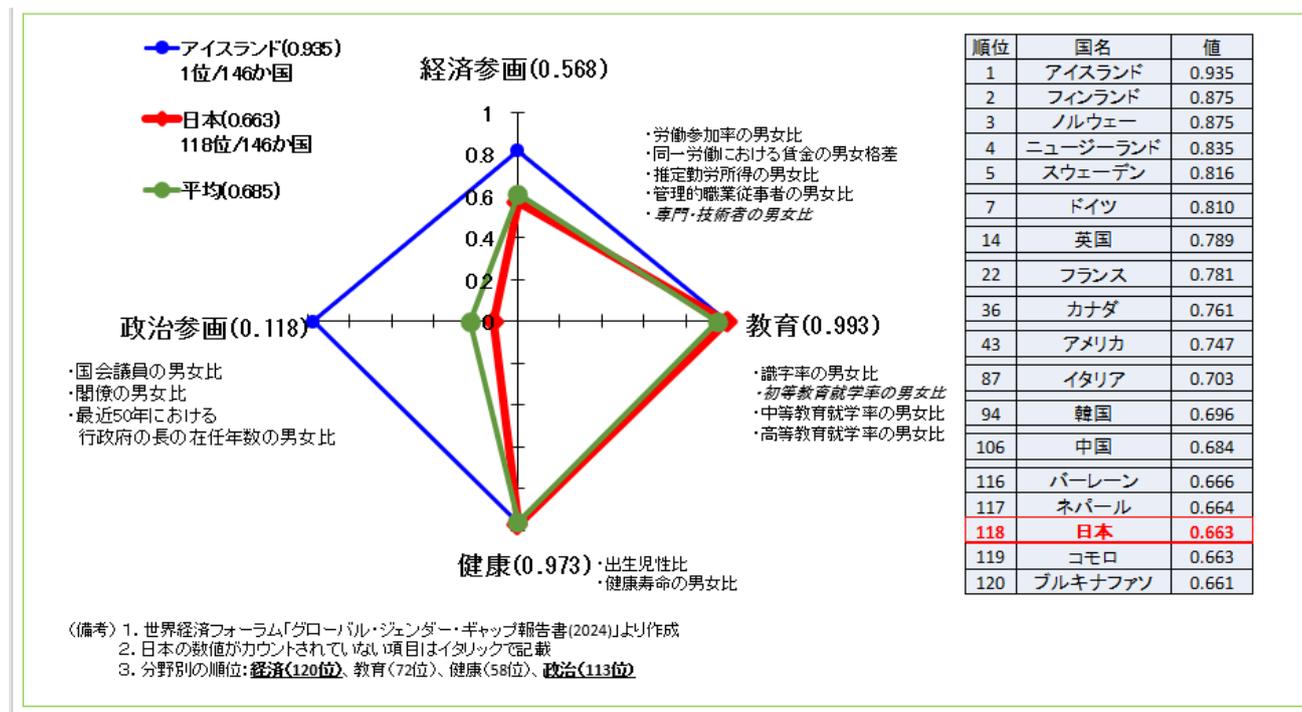
ジェンダーギャップ指数とは

世界経済フォーラム (World Economic Forum : WEF) が毎年発表している、世界各国の男女格差を測る指数です。政治・経済・教育・健康(※)の4分野のデータから作成され、1~0のうち数値が高いほど男女平等が達成されていることを示しています。

※政治:国会議員、閣僚の男女比等 教育:識字率、初~高等教育就学率の男女比等
経済:労働参加率、管理職員の男女比等 健康:出生児性比、健康寿命の男女比等

日本と世界のジェンダーギャップ指数

2024年に発表された日本のジェンダーギャップ指数は、0.663で、146か国中118位。中国や韓国といったアジア諸国と比べても低い順位となっています。特に政治と経済分野での値が低く、女性が政治・経済に参画しやすくなるような取り組みが求められています。



「男女共同参画に関する国際的な指数」(内閣府男女共同参画局 HP 2024.06.12)より抜粋

7月に開催されたパリ五輪では、史上初めて男女の選手数が5250人で同数となり、世界における男女平等は着実に進んでいます。しかし、前回の東京五輪時における日本のジェンダーギャップ指数順位は156か国中120位、そして2024年には146か国中118位と、日本は順位が低迷しています。